

栄八通信

武雄市議会だより (フェイスブックも) 始めました

http://ei-8.info/

第85号

R4年5月発行最終号



前武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

水害問題は2つの対策の実行

【注意】 ただ今出水期は高橋排水機場の3号機の増強のみで要警戒

【抜本対策】

令和元年に続き、令和3年水害後、市長は、これまでの対策では対応できないと、「抜本的な水害対策」の実施を打ち出された。

六角川は、武雄からの六角川と多久からの牛津川が合流して有明海に注ぐ。牛津川の抜本対策は、30年前H2年の水害の激特事業で整備された、「牟田部遊水地」と今整備が進む、「牛津川遊水地」。

六角川については、東川登町の「六角川調整池」と白石町大渡の「分水路等」の2つが抜本対策。

毎年議員で東京に要望活動に行き、いつも返されるのが、「地元調整をお願いします。」の言葉。要は、地権者と話をまとめてくれるの意見と思う。

そこで、3月の一般質問で地権者との話し合いは、進んでいるかと尋ねると、進んでいるとの部長の返答だが、買取については金額が全然明示されてなく、反応も何も分からない、との答弁で、私から見れば、国や国会議員さんの言われるように、地元調整は進んでないと判断されるし、議会や市民に進捗状況が分かる様にすべきと思う。

一方、六角川調整池の整備には着手しているとの公報もあるが、着手しているのは、調整池の本体部分でなく、その前を流れる川の蛇行の直線化を進めているだけで、本体着工と誤解をしている市民も



【床上ゼロ対策】

市長は、水害対策はすべてできなくても、せめて床上浸水ゼロを実現すると宣言されている。

しかし、国交省の治水対策後の床上浸水シミュレーションでは、1600戸の床上浸水が、550戸になると公表された。そうならば、床上浸水ゼロと言っても言葉だけで、無意味なのでこは、その550戸に対して100%の対応をすることが大切になる。

現在、市のかさ上げ補助利用者は60件あまり、高齢者はかさ上げの工事は考えられない。市営住宅の空室に住めるようにできないか等考えは様々。そこで、床上浸水が免れない550戸に対しての今後の意向をアンケート調査して対策を考えてはと提案。市は、アンケートは今後考えたとの答え。

新幹線開業と清本跡地

長崎新幹線の開業日が、9月23日に決定し、受け入れ準備が進む。諫早駅などは、新たに駅前に3棟のビル整備など官民協力体勢ができて、着実に進む。

大村駅も嬉野駅もかしかり、一方武雄市はどうかと見ると、天神崎―白岩線と永松―川良線の都市計画道路の整備費を活用して南口広場の整備をしていく状況。一方、駅前再開発については、永年将来に備え、市が保有した清本跡地を、約10年前のH25年に、市内建設業者に、市が確保に要した額の半額程度の、5783㎡を2億7496万円で購入。当初H27年に着工の契約が、途中

H30年に変更申請があり延長した。しかし、再度延長の申請があり新幹線開業後の、R4年12月の着工に変更されているが、まだ具体的な整備の内容は示されていない。H27年から、R4年まで約7年間の着工が遅れているのは、第一に業者の責任もあるが、他市では開発業者との連携もされていて、市の責任もあると思う。さらに、問題あると思うのが、早く着工を進めべき政治家が、その場所を選挙や後援会事務所として借りることが多く、市が開発のために安く提供した土地を、大幅に着工が遅れる中、それを政治家が借用するならば、市民から癒着と見られてしまうのではないかと懸念。

できれば、新幹線開業の9月には、建設計画が示され、期限の12月には、確実に、ビル建設に着工を行ってほしい。



開発予定地

140cm 武雄温泉駅南口乗降場の改良

現在でも、南口が唯一混雑するのが、電車到着時の送迎の車で、今回南口広場が整備されれば、もっと便利になると思っていた。

もう、一般車の乗降所のための白線が引かれているが、どの車も車体が白線から道路にはみ出している。そこで、幅を測ってみると140センチ程度しかなく、車体の幅より狭いし、カーブもして整頓が逆になり、使い勝手が悪い状況に。

一般質問で尋ねると、警察の指導に従ったとの答弁だった。調べると県の警察の指導と判明し、乗降場の



乗降場

車ははみ出す幅に指導するのかわねると、用地が道路を利用して、駐車場を市有地や広場用地を利用すれば良いとわかった。改善の必要がある。

都市計画道の見直し 新しい所の選定が良くないか?

国は、昭和30年代の高度経済成長時代に計画した、都市計画道の長期未着手の道路について、人口減少時代に合う計画へガイドラインを作成し、自治体に求めている。武雄市においても、武雄町・朝日町のJR線の北側の都市計画道の見直しに着手。元案は、田の形を合わせた形で、他市に同じ状況。

今回残した道路は東西に、武雄温泉近くからAコープ付近まで、南北は八並の二本松商店付近から駅近くまでの2道路。今回は整備実施を前提に残しているの、地元と早急に話し合いに入る必要があると思われる。私自身は、家屋が密集し、移転や費用、時間が必要なので、以前から言っているが、解体した家の土地を購入して、離合場所の整備

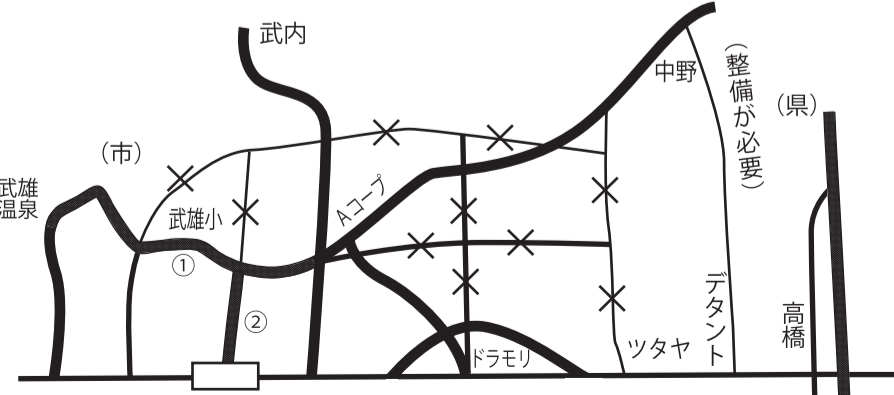
課題・朝日町の南北道整備 今回の見直しで、Aコープ付近(水道公園交差点)より東側は、ほぼAコープ前の県道に戻る交通になる。見直しで、ドラモリからの南北。今のTSTUYA横から南北。の2路線が計画から外れ、甘久付近から伊万里方面へのスムーズな交通が期待できなくなる。対策としては、県が計画を残す高橋の東側に新道路を整備してもらうか、デタント横の道を整備して、高橋交差点の渋滞解消をすることが必要と思う。

温泉の配管設計 約1700万円の前にすべき事

市が、急に保養村の温泉の源泉の配管を、武雄温泉駅付近まで、引くことを目的とした、「給湯管延伸測量設計業務委託料」1695万円をR4年度の給湯特別会計に計上してきた。ただ、測量や設計はするが、実際、配管の延伸するかは、委託の内容を見てからの判断と言う。

そんな、あやふやな考えで、1700万円も支出することに疑問を言うと、いくらかかるか、調べないと判断できないとの弁明。

また、武雄温泉駅南口の足湯はしないとの私の一般質問には答えていて、何のためかと聞くと、今後建設されるであろう、宿泊施設への給湯が目的との話。それなら、新しい施設の給湯の利用料を予測し、収支計算をして進めるべき。



どうなる？ 文化会館

前市長の時、大ホールは利用者が少なく老朽化しているとして解体し、キッズライブラリーを作るなどの話や、議員の一部からは、維持管理に金がかかるので解体した方がよいなど、一時議論が活発だったが、近年は低迷していた。国のアセット計画により、30年間の方針が求められる中で、再度文化会館の将来像が注目された。小楠にあった勤労者福祉会館が廃止され、その貸室の役割を文化会館が担うとの計画だが、まだ実施されていない。

一方、令和4年度に990万円をかけて整備の基礎調査を行うが、方針としては、大ホール長寿命化・小ホールは解体・集会棟などは、建て替えと長寿命化との2案を作成する。また、「文化のまちづくり構想」との関係は不明。

花まる学習

印刷代700万円の虚偽

昔の朝自習の時間を使った花まる学習塾の自己啓発的な教育を導入する武雄市。実施主体は各町の推進本部の申し出の形をとる。児童と地域の人の交流と、良い面もあるが、割当職員や、多忙な先生に負担はかけないとの約束だったが、今は先生なしでは無理な状況で、市も10年での見直しにも担当者レベルでは言及している。

一方、これまで明確にしていなかった経費について委員会に提出された。年間約1500万円で、主なものは750万円の教材の印刷代で、以前プリントは、タブレットに入れば不要との私の提案に、印刷代の形をとったライセンス料との答えで、必要との話。ただ今回、印刷代は花まるではなく、別の印刷業者に支出していることがわかり、虚偽の解明が必要。

アセット計画 まじりやり直し必要

急な人気取りの事業が出来ないのを嫌がってか、将来計画マスタープランを作らない新武雄市。あるのは、国が30年後の人口30%減少を見て全国に策定させた、公共施設統合管理計画。その具体的内容を示す個別計画、通称アセット計画を策定して、それを元にスポーツや文化教育施設を整備する形になっている。

ここで重要な問題が、このアセット計画が、アセット推進室を中心に担当課との打ち合わせで策定され、施設の利用者や広く市民の意見を聞かずに決定している点。

それが当初から指摘されている北の方と白岩の相撲場統合に表れている。これから文化会館などの改築もあるが、私はここで再度アセット計画を市民の声を聞いてやり直ししてほしい。また解体跡地の利用計画も必要である。

東川登町の 新球場と

新工業団地の場所

新野球場の立地場所は、議員も新聞報道で初めて知った。また新工業団地の場所の選定も広く意見も求められていない。

どちらも常識を超える急傾斜の場所にあるが、議員に立地場所の賛否をはかれることはない。ただ、残された判断基準は、地質調査の結果だけが意見する理由になるが、この二方所共に地質調査は問題ないとのコンサルタンの調査報告だった。

しかし、野球場は工事の途中、ブロックが崩れ、一部補修をした。また、工業団地の方も雨でのり面が2回も崩壊している。

最近、地質調査も当てにならないなどの議員の認識。場所選定は議決案件でないかもしれないが、意見を聞くか、責任を取るかが必要。

千年夜市の運営 補助金550万円と 疑惑

新幹線開業関係の高架下活用の実証イベントと思われる千年夜市。武雄市が開催していると思っていたが、令和2年度は市で、令和3年度は市民の実行委員会が行っていたとの話。

3月議会でも他議員の質問で驚いたのが、このイベントに県から500万円と、市からは50万円に加え、場所代も無償と公的な多額の補助を受けていたにも関わらず、市内の飲食店の出店はわずかで、案内も受けていないとの声もあるとの指摘。

市は、民間が行っていることや飲食以外の市内参加がある程度あったとの答弁。そこで、市に提出の書類を見ると、当初団体が用意する569万円と補助金550万円の計1119万円の予算が途中変更され、659万円になり、ほぼ補助金での運営で、疑問が残る。

おつぼ山の神籠石 整備と橘町の発展

橘町に「こうご石」という、7世紀(飛鳥時代)の朝鮮式山城がある。全国には、20カ所ほどあり、韓国ドラマ朱蒙が登場する扶余国とも関係があると聞く。

この神籠石は、神城説と山城説があり、武雄市の昭和37年の発見が山城説を確定したとして重要視され、国指定の文化財になっている。これまで、国の予算で少しずつ市有地にしてきた。いよいよ整備計画が作られ、観光の拠点になるのかと思ったが、整備内容は、見学通路を整備するのみで、国は保存にのみ力を入れる状況が判ってきた。これまで、多くの橘町の議員さんが、この神籠石整備で橘町を盛り上げようと努力されてきた。今後は別に、橘町の発展のために住宅や企業誘致なども考える必要があると思う。

工業用水事業 早期の統合を願う

私が議員活動で課題としてきたのが工業用水事業で、簡単に言えば予定の約10%しか利用が無く、ここ20年間に毎年5000万円を事実赤字補填してきたこと。主に、矢筈ダムや浄水場・配管等の設備の借金払い。これがいよいよ終了するので、旧北方町まで来ていた大町・江北とで作る杵島工業用水道との統合を提案してきた。市も、北方インター工業団地付近から、若木工業団地への配管を済ませ、令和4年度統合予定だった。しかし武雄市は1年間統合を延期した。その理由は、東川登の新工業団地の立地状況を見てからの話だが、そうしていたらその間に老朽化した設備が故障したときのリスクが大きいと思う。

今統合しても、工業用水の水利権は十分にあるので、対応可能。

子ども貧困対策 養育費受け取り支援を

市が進める子どもの貧困支援には、当初より共感するところだが、私は貧困の主な部分は経済的なものと思う。

市は心の貧困を主とした伴走型支援のコーディネーター派遣が中心で、私が当初より言っているのは、経済的支援で、①食糧支援②無料塾などの教育費の支援。

一方、もともと子どもの貧困を引き起こす要因は、ひとり親家庭への、元の配偶者からの養育費の不払いが原因。

そこで、明石市が行っている不払養育費の立て替え払いと回収事業か、或いは神戸市などが行っている、民間保険会社によるアパート家賃保証と同じ養育費不払い保険の加入金5万円支援を市も実施してほしいと質問。

市が調べる中で、県が9月より同様の制度を開始していたことが分かった。ただ、養育費の取り決めが前提なので、市には「取り決め支援」をまず望む。

ふるさと納税問題の裁判の状況と 責任の検証を

ふるさとと納税問題で、令和3年度予算を最後に補正して、委託業者大平商會を裁判所に提訴するたの費用を計上した。

○ふるさと納税問題で、令和3年度予算を最後に補正して、委託業者大平商會を裁判所に提訴するたの費用を計上した。

○ふるさと納税問題で、令和3年度予算を最後に補正して、委託業者大平商會を裁判所に提訴するたの費用を計上した。

沖永踏切り 早期の市道改良を

新幹線の複線化工事に絡み、沖永踏切の拡幅工事をJRと協議しながら進めている。しかし、踏切前後の市道の整備も同時にできないと効果は発揮されない。

この場所については、何年も前から、まず市道の整備を先に進めて、市道部だけでも改善すべきと言ってきた。その時は踏切改良計画が明確でないと理由だった。それなら確定した今、すぐに着手すべきと思う。



沖永踏切り

編集後記

平成3年の市議選に、ふるさと創生1億円の市の使い道などこのことから、他人から見れば無謀に立候補した。それが青年団や女性の候補者を誘発し、共倒れで落選から始まった約30年の政治生活。

昔から、現在のSDGs的な考えを持っていて、物やお金の有効活用に関心があり、特に市民から集めた公金が無駄に使われるのは、我慢ができない性分。

好きな仕事をさせて頂き、報酬までいただき感謝いたします。一方、通信発行は年間80万円かかり、そのうち10万円は政務調査費を活用しました。今回は全額自費発行ですが、選挙公約なので最後まで発行出来て良かったです。

市議選に出なかったのは、来年県政に挑戦してみたいと思ったからで、理由は新幹線問題に在来線を利用する新在直通(ミニ新幹線)を進めたいとの思いからです。